

平成30年度 横浜市立緑小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。緑小学校では、横浜市交通局緑営業所・若葉台営業所と連携し、緑小学校の近隣にある緑営業所にて実施しました。
- 緑小学校は、JR 横浜線 鴨居駅を最寄駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた緑小学校の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- グループに分かれて、①バスを用いた車いす利用体験・介助体験、②バスを用いた高齢者疑似体験、③バスの乗り方に関する紙芝居及びバスの死角体験、④バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、④の座学において、バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さを伝えました。



緑車庫での実施



座学の様子



車椅子での乗降体験



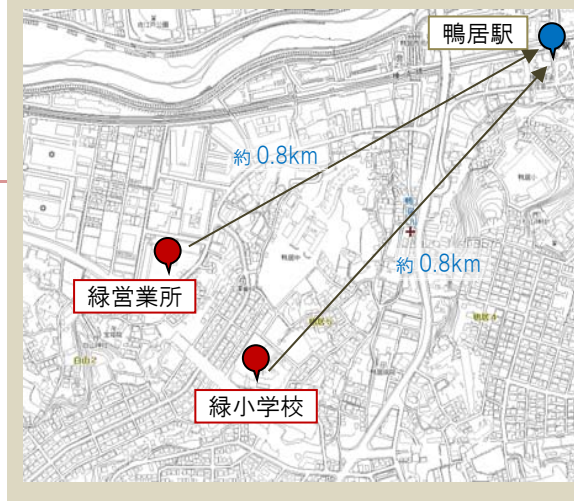
死角体験

■交通バリアフリー教室について

【日時】平成30年12月10日(月)
第1～4校時(8:50～11:45)

【対象】緑小学校
6年生1～4組(139人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスを用いた高齢者疑似体験
③バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験
④バスのバリアフリーに関する座学



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学ではまず、子どもたちのバスの利用状況や、身近なバス停などの状況を説明しました。緑小学校には、駅へ行くときにバスを利用している子どもが多くいるようでした。
- 次に、バリアフリーに関して、車いすの方もお年寄りも「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできたバスのバリアフリーの現状を中心に授業を行い、誰かのための特別な乗り物ではなく、誰もが同じように使えることが重要であることを伝えました。
- また、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、バスの利用者が減少していくと「バスが将来、無くなってしまう」可能性があり、「それによって困る人がある」ことを、マンガリーフレットを用いて伝え、モビリティマネジメントの大切さを伝えました。
- 「行き先や状況に応じて、バスも上手に使うって暮らす」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 車椅子利用・介助体験や高齢者疑似体験では、子どもたちから「バスの乗り降りが怖かった」、「これからは体の不自由な人を見かけたら手伝ってあげたい」といった感想がありました。
- バスの乗り方紙芝居やバスの死角体験では、バスを利用するにあたっての注意事項を学びました。バスの利用頻度が高い地域だからこそ、ルールを守ってこれからもバスを上手に使うって欲しいと思います。
- 横浜市交通局のバスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。



普段は座ることにできない運転席に座って、死角を体験しました。

膝に重りをつけ、さらに目にはゴーグルをかけた状態でバスの乗り降りをする、高齢者疑似体験を行いました。

